

---

2018年

ユニセフは、新たなもの、  
進行中のものを含め  
90カ国で285件の  
人道危機に対応し、  
以下の支援を  
届けました。

- 4,360万人以上に安全な水へのアクセスを提供
- 710万人の子どもを含む240万世帯に現金給付プログラムを提供
- 690万人の子どもに学習の機会を提供
- 360万人の子どもと青少年に心理社会的支援を提供
- 重度の急性栄養不良に苦しむ6カ月から59カ月の340万人の子どもに治療プログラムを提供

人道支援活動の総支出：27億米ドル

---

右：エクアドルのユニセフが支援する「子どもにやさしい空間」で赤ちゃんと遊ぶ両親。この空間は、ベネズエラの危機から逃れてきた子どもと家族を支援する人道支援活動の一環として運営されています。

© UNICEF/UN0253250/Moreno Gonzalez





## 人道支援

2018年の紛争、自然災害、病気の蔓延およびその他の危機は、子どもたちの生活と未来を脅かし、SDGs達成に向けた進歩を妨げました。

紛争の影響を受けた地域に住む子どもの数は、世界でおよそ4億2,000万人に上ります。紛争やその他の緊急事態によって多くの人々が移動を強いられました。2018年には、約6,900万人が家を追われました。その中には約2,540万人の難民がおり、その半数以上が子どもでした。

## @UNICEF アドボカシー 2018: #ChildrenUnderAttack

2018年、紛争下にある地域で、人道支援を受けることを妨げる行為を含む子どもたちへの攻撃を終わらせるため、ガザ、シリア、イエメンなどの国・地域における危機や、バングラデシュのロヒンギャ難民危機に巻き込まれた子どもたちの声を代弁することに力を注ぎました。このキャンペーンは、人道危機における子どもの安全な水と衛生の確保に重点を置きながら、さらに「教育を攻撃から守る世界連合」(Global Coalition to Protect Education from Attack : GCPEA)との協力の下、すべての子どものために学校を安全な場所にするよう呼びかける報告書を作成しました。

### 焦点を絞った対応

ユニセフは、大規模な人の移動と長引く危機への対応の強化を続ける一方、その活動の質を高め、範囲を拡大していくことにも取り組んでいます。2018年、ユニセフは、新たな緊急事態を経験しているそれぞれの国々に合わせた支援を行いました。これには、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の移民危機の影響を受けるパプアニューギニア、エボラ出血熱の集団発生に見舞われた西部・中部アフリカの国々などが含まれます。

コンゴ民主共和国では、紛争や自然災害の影響を受けた100万人以上の人々に水と衛生サービスを提供しました。コレラとエボラ出血熱が発生しやすい地域では、約240万人に水と衛生の問題を解決する支援を提供しました。アフガニスタンでは、干ばつの影響を受けた地域に住み、重度の急性栄養不良に苦しむ約27万6,000人の子どもたちが病院で治療を受けたほか、干ばつの影響を受けた地域を含む100万人以上の人々が水を利用できるようになりました。

### 開発支援と人道支援活動をつなぐ

ユニセフは、開発プログラムにおける危機の予防とレジリエンス（回復力）の強化を図ると同時に、人道支援活動においても子どもたちが開発支援から受けていた恩恵を維持できるよう努めています。

2018年、ユニセフはシリアにおいて、適切に設計された短期的な支援はレジリエンスを構築する長期的な支援の端緒になることを実証しました。ウクライナ東部においては、質の高いサービスを提供し、社会的結束を高めるために地元政府とNGOの能力を構築することに力を注ぎました。さらに「国連持続可能な平和イニシアティブ」(United Nations Sustaining Peace Initiative)の試験的な取り組みが行われているブルキナファソにおいては、政府が人道支援と開発支援を結びつけることで、子どもの権利を促進し、地域社会のレジリエンスを高める取り組みを行いました。

また、インドネシアのスラウェシ島の地震の後、地域社会への働きかけと一連のワークショップを通じて、災害

## @UNICEF パートナーシップ 2018：人道支援

米国は2018年のユニセフの人道支援活動における最大の政府資金パートナーであり、ユニセフのバングラデシュ、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、シリアなどの国々での活動に貢献しました。

2018年オランダは、ユニセフの人道支援活動における分野別予算への最大の貢献国として引き続き支援を提供しました。

また韓国も、分野別予算を通じた支援を含め、ユニセフの人道支援活動への貢献を拡大しました。

スウェーデンとデンマークは引き続き柔軟性の高い支援を継続し、ユニセフの「子どもたちの人道支援報告書」(Humanitarian Action for Children)のための目標達成に向けて貢献しました。

湾岸諸国、特にサウジアラビア、クウェート、カタールおよびアラブ首長国連邦もユニセフの活動への関与を強化しています。人道支援に多大な貢献をし、危機に陥った子どもたちを支援するための「通常予算」にも積極的な支援を提供しました。2018年12月、ユニセフ事務局長がこの地域を訪問したことにより、緊急時に子どもたちを支援する湾岸諸国のパートナーとしてのユニセフの地位が強化されました。

の被害を受けた子どもたちは当面必要な短期的支援と長期的視野に立ったサポートの両方を利用することができました。

### 世界的な取り組み

2018年ユニセフは、栄養、教育、水と衛生、および人道支援部門の対応を調整する国際的なパートナーシップ「担当分野は子どもの保護」(Child Protection Area of Responsibility)を引き続き牽引しました。

クラスターパートナーの協力（さまざまな組織や団体が支援する中で、支援の重複や不足を防ぐための調整を行うシステム）によって28カ国に支援上の調整や管理におけるサポートを提供することができました。

さらに、ユニセフは、人道支援プログラムで1,403のNGOパートナー（その約67%が現地NGO）と協働しました。また、緊急事態発生時の迅速な対応を拡大するために、スタンバイ状態のスタッフを配備したパートナーとの協力を継続しています。2018年は、22のスタンバイパートナーが165件の配備につき、緊急事態に対応しました。

## @UNICEF アドボカシー 2018: #ChildAlerts

「ユニセフ・チャイルド・アラート」(UNICEF Child Alerts)は、子どもたちが昨今直面している危機的課題へ世間とメディアの注目を集めるべく作成している報告書シリーズです。2018年の「チャイルド・アラート」では、中央アメリカとメキシコの子どもの移民・難民を巻き込んだ危機、バングラデシュとミャンマーのロヒンギャの子ども、コンゴ民主共和国カサイ州での暴力に巻き込まれた子ども、中央アフリカ共和国の紛争の影響を受けた子どもを取り上げました。

### @UNICEF パートナーシップ 2018：人道支援

欧州委員会（EC）の欧州委員会人道援助・市民保護総局（DG ECHO）は2018年、ユニセフの活動のためにおよそ7,200万ユーロを拠出しました。シリア危機が始まって以来、このパートナーシップによって、110万人以上が栄養、学習、子どもの保護などを含む命を守るためのサポートを受けています。トルコでは、DG ECHOが支援する、条件付き大規模現金給付プログラムから40万人以上の子どもたちが恩恵を受けました。

ユニセフは「世界ザカート・フォーラム」(World Zakat Forum)と新しいパートナーシップを結びました。世界ザカート・フォーラムは37のザカート委員会から成るグループで、イスラム法に基づいて毎年慈善目的に使用される金銭支払いの管理に携わっています。2018年

12月、同フォーラムとそのメンバーは、国内でのザカート資金の戦略的使用に関してユニセフと協働することで合意しました。さらに、特に人道的行動のために、イスラム開発銀行の支援を受けて設立された共同の「子どものための世界イスラム慈善基金」(Global Muslim Philanthropy Fund for Children)を通じたユニセフへの直接寄付を検討することで一致しました。

また、2018年の慈善活動部門では、ユニセフのパートナーLDSチャリティー(LDS Charities)が、コンゴ民主共和国、ケニア、スーダン、ウガンダの3万人以上の難民とホストコミュニティの子どもが質の高い幼児教育と教育サービスを利用できるよう支援しました。